

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470901107
法人名	医療法人社団 裕正会
事業所名	グループホームウエルケア
所在地	横浜市港北区新吉田東8-31-13 (電話) 045-534-1571

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	2008/1/10	評価確定日	2008/2/8

【情報提供票より】(19年12月 1日事業所記入)

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 9.7 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	71,600 円	その他の経費(月額)	10,600 円	
敷金	有()円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1200 円	

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.3 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ウエルケアクリニック 山本祈念病院 ウェルケア訪問看護ステーション
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所は地下鉄新羽駅から徒歩15分の市街地にあり、近くに大手スーパーや散歩道があつて、生活に便利な場所に立地している。
 ◇理念に「大切な人だから…」を掲げ、一人ひとりを尊重し明るく家庭的なゆとりある生活を目指し、日々サービスの向上に努めている。
 ◇利用者一人ひとりのADLに応じて健康管理に配慮し、個別ケアに心掛けている。医師や訪問看護ステーションとの協力体制があり、医療と福祉の連携が図られている。
 ◇職員の資質向上に積極的に取り組んでいる。また長く勤めている職員が多く、利用者との職員の馴染みの関係が利用者の安心感につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前回評価では要改善事項の指摘はなかったが、日頃から評価の視点でのサービス改善に努め、毎月のスタッフ会議で確認している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・自己評価の意義について職員全員に説明し、ケアに関する項目を主に職員が記載した後ユニットリーダーが確認し、その上で管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・近接する3グループホームが合同で11月末に初回の会議を開催した。出席者は、家族の代表者と町内会連合会長、社会福祉協議会事務局長、地域包括支援センター主任ケアマネージャー及びグループホーム管理者である。 ・会議ではグループホームの現状と主な活動について報告し、参加者からは質問と要望、助言などがあつた。今後は避難訓練や散歩の見守りなど、地域住民との連携について会議で検討する予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・家族からの意見は玄関に無記名の用紙と投書箱を設置し、意見や苦情を聞き出す方法をとっている。寄せられた意見や要望は早急に会議やケースカンファレンスで話し合い、対応については「回答」を掲示して利用者や家族に開示している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・町内会に加入し、運動会や地域のお祭り、近接する同一法人の介護老人保健施設の行事に積極的に参加している。 ・近くの小学校が、課外授業で歌を歌ってくれたり時々遊びにも来てくれる。また社会福祉協議会に登録の傾聴ボランティアが各週1~2回来ている。
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「大切な人だから…」を基本理念とし、一人ひとりの尊重と明るく家庭的なゆとりのある生活を独自の理念とし、地域との交流に努めている。 ・理念は利用者一人ひとりに対するきめこまかな配慮と、その人らしい生活を支えるケアの実践を謳っている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝の申し送り時やスタッフ会議で理念について話し合う場をつくり、職員の理解と周知に努めている。 ・理念を玄関や事務室、リビングの目につくところに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会に加入している。また小学校の運動会や、近隣の老健の行事や催し物に積極的に参加している。 ・毎日の散歩やゴミ拾い時の住民への挨拶、小学生の課外授業交流などで地域住民との関係づくりをしている。また社協のボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価の意義を職員に説明し、ケアに関する評価を職員が行ない、ユニットリーダー確認の上で管理者がまとめた。 ・前回外部評価では特別な要改善事項はなかったが、日頃から評価の視点でのサービス改善に努め、毎月のスタッフ会議で確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・近接する同 法人のグループホームが、合同で11月末に初回の会議を開催した。出席者は家族の代表、町内会会長、社協の事務局長、地域包括支援センター代表である。 ・会議では現状と活動状況を報告し、参加者からは質問と要望・助言などがあった。今後は避難訓練や散歩の見守りなど、地域住民との連携について会議で検討する予定である。		

グループホーム ウェルケア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・2か月に1度開催の横浜市グループホーム連絡会に区役所の担当者が参加し、事業所の運営について話し合っている。 ・区の担当者と介護保険や生活保護に関する話し合いの機会が多く、また横浜市主催の研修会や会議にも出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月1回、個人別に日常生活や余暇活動などの暮らしぶりを記載して家族に送付している。来訪時は行事のアルバムを見てもらったり、話し合いの機会を設けている。 今後は定期的に家族との面談を予定している。 ・病気やケガなど問題が起きた際はその都度電話で連絡している。 ・金銭管理については出納帳に記録している。	○	・金銭出納帳について、家族の確認(印、又は署名)をもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見や苦情については、スタッフ会議やケースカンファレンスの場で十分検討し改善につなげている。苦情への回答を掲示して利用者や家族に開示している。 ・玄関に投書箱を設置している。利用者や家族が意見を出しやすいように配慮している。 ・契約時に重要事項説明書にて苦情対応窓口をしっかりと説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者と職員は馴染みの関係にあり、職員の異動については慎重に利用者へ説明し理解してもらっている。 ・職員には管理者が定期的に面談してストレス軽減を図り、離職防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の研修会やグループホーム交換研修など、外部研修や勉強会に積極的に参加し、職員のスキルアップに努めている。受講後は報告書を回覧し職員に周知している。 ・同一法人の老健が主催する月1回の研修に、毎回約半数の職員が参加している。また1日のケア記録を見て、管理者がOJT指導をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市のグループホーム連絡会や交換研修で同業者との意見交換や情報共有を図っている。 ・また同一法人が経営する3グループホーム間での意見交換、情報交流を積極的に実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に利用者に見学してもらい、またよく話を聞き安心してもらうよう計らっている。体験入居をしてもらった事例もある。 ・入居後もコミュニケーションを密にし早く慣れていただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・家事を主体にできることは努めて職員と利用者が協力して行っている。若いスタッフは料理や生活上の慣わしなど学ぶことが多い。 ・また利用者からお世話への感謝の気持ちを伝えられることもある。利用者職員との相互に信頼する関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時のアセスメントにて把握している。利用者の一人ひとりのADLに応じて、本人の希望や意向の把握に努めている。 ・意思疎通が困難な利用者に対しては、家族の話や利用者の日頃の行動などから汲み取るようしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・月1回のカンファレンスにて意見を集約し、介護計画書を作成している。介護計画は利用者家族の意向を踏まえ、利用者の注意点を記入したケアカンファレンスノートをもとに作成している。作成後は家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は3か月に1度、定期的に見直している。 ・ケアカンファレンスノートを活用して、利用者の日常生活状況や介護の状況を正確に把握している。状態の変化や、計画書の内容と現状が合わなくなってきた場合は、利用者や家族と話し合い、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・同一法人の介護老人保健施設や訪問看護ステーションと連携をとりその機能を十分に活かし(医師・看護師の24時間対応など)多様なニーズに対応できる体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関がかかりつけ医である。利用者や家族の主治医の希望があればそれを尊重している。 ・2か所の協力医療機関から定期的に往診があ。全利用者が受診しており状態変化に早く気づける体制をとっている。 ・訪問看護ステーションの看護師が2週に1回、利用者の健康チェックをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化や終末期に向けた基本的対応について重要事項説明書に明記している。重度になる前に利用者や家族と話し合い、職員や医師、訪問看護ステーション等関係者全員で、具体的ケースに応じて対応方針を共有している。尚、ターミナルケアを2件行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者を尊重した優しい言葉かけと、利用者に寄り添った温かみのある接し方に気を配るようにしている。また職員相互に不適切な言葉や行動に注意している。 ・利用者の介護記録などの個人情報については、取り扱いに十分注意するとともに事務所で施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日の生活の流れの中で、その日の一人ひとりの希望にそった支援をこころがけている。利用者はそれぞれに折り紙やおセロゲーム、洗濯物たたみ、テレビなどでゆったりと自由に過ごしている。また毎日体調をみて散歩に出かけている。 ・飲酒も自由に居室で楽しむ利用者もいる。		

グループホーム ウェルケア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・同一法人の介護老人保健施設からの副食の配達サービスを利用している。ご飯と汁ものの準備や盛りつけや片づけ、おやつ作りは、利用者が職員と一緒にやっている。 ・食事中はCDの音楽やテレビをつけ、職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は利用者の希望に応じている。午前中や毎日入る利用者もいる。嫌がる利用者には言葉かけなど工夫をすることで、入浴が負担にならないように配慮している。声かけにより利用者が気持ちよく入浴できるよう見守り介助をしている。 ・週2～3回は入れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・水槽の魚の餌やり、糟漬けづくり、天候を記録する日課など、日常生活で利用者ごとに役割をもっている。また編み物やスケッチ、仲の良い人とお喋りなどその人なりに楽しめるよう、また生き甲斐をもてるように個別の支援を心掛けている。 ・ホームでの行事も季節ごとに工夫している。音楽療法を採り入れ歌を歌うなど楽しみの機会は多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・極力その日の希望にそえるよう支援している。日常的に近くの公園などへの散歩や買い物がある。利用者の身体機能低下もあり揃っての外出は避け、2～3人ずつで公園や動物園、外食、お茶飲みに行っている。 ・車椅子の利用者も車で出かけたり、テラスに自由に出て、お茶を楽しんだり日光浴をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は交通の激しい道に面しており交通事故と不審者対策として、電子錠にて施錠している。職員の見守りの中でテラスには自由に出入りすることができる。 ・各居室には鍵があり、鍵の使用は利用者の判断に任せている。鍵をかけることで安心する利用者もいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練を年1回職員が行い、消防訓練は職員と利用者が一緒に行っている。 ・消火器、避難誘導の案内板、火災報知機が分かりやすく設置されている。 ・災害時の非常食や備品を備蓄している。	○	・避難訓練は職員と利用者が昼間・夜間を想定して、一緒に行う実践的な訓練が望まれる。又、近隣住民の協力が得られるような働きかけが期待される。

グループホーム ウェルケア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は同一法人の老健の管理栄養士が作成している。副食は同施設から配達され事業所ではご飯と汁物を作っている。献立には利用者の好みのものを入れ、佃煮、ヨーグルトなどを追加している。 ・食事量や水分摂取量を記録している。また訪問医が必要に応じて採血を行い健康状態を把握している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先には季節の花の鉢植えがあり、玄関に入ると利用者が描いた絵が飾られている。 ・リビングには3つのテーブルを配置し利用者が思い思いに利用している。テレビに向けてソファが置かれ寛ぎの場になっている。水槽やシクラメンの花で季節感がある。 ・採光もよく、室内は清潔に保たれている。遮光カーテンを使用し光や音への配慮がうかがえる。 		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室には利用者の馴染みのベッドやダンス、椅子、位牌や縫いぐるみ、写真など思い思いのものを置き、それぞれに居心地良い居室作りをしている。過ごしやすい部屋になっている。 ・仲の良い利用者を迎えられるように、来客用の椅子とソファを置いている部屋もある。 		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念を掲げ日々のサービスに反映出来るようスタッフと共有し努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時、スタッフ会議などで話し合う場をつくり理念の共有に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎日の日課である散歩時にゴミ拾いや、町人への挨拶、町内会で行なわれる行事等には積極的に参加している。家族には毎月の報告書にて行事へ参加している事等を報告している。運営推進者会議等も利用している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日散歩する事で顔なじみの関係になり挨拶する関係になっている。小学校の課外授業で知り合った生徒が放課後に遊びに来たりするようになった。地域への行事には積極的に参加し顔なじみになるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホーム以外でも法人での行事や催しものにも参加し地域との交流に努めている。		町内会の運動会や近所の会社主催のお祭りには毎年参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩や買い物などの外出時に困った人などがいれば声を掛けるように話合っている。		グループホームに徘徊され迷われた方が来たため、保護し警察へ連絡、引渡しをした。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にて上がった改善点は会議などで話し合い、改善に努めている。スタッフには意義を説明し理解してもらっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進者会議を3つのグループホームが合同でする事で、より法人としての地域、家族、入居者様への取り組みなどを話す事が出来る。	○	第1回は11/30日に実施した。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市グループホーム連絡会にて2ヶ月に1度ブロック会に港北区役所の方が来られ話し合いなどを行っている。		都筑、港北区ブロックが合同にて開催している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	積極的に研修や勉強会に参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケースカンファレンスや会議などで話合っている。		虐待などもっと細かいところでの勉強会を今後実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前より随時管理者が家族の対応をし、十分説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱を玄関へ設置し意見を拾い、会議、ケースカンファレンスで十分に話し合い改善している。利用できない方には苦情や不満はケースカンファレンスノートを利用し、情報を共有、改善している。</p>	<p>ケースカンファレンスノートの活用により個人の不満などより改善しやすくなったと思われる。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、家族には報告書を送付し普段の生活を重点に報告している。又、面会時にその都度話し緊急時には電話連絡をしている。</p>	<p>今後定期的に各家族と面談が出来るように予定している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱を設置し意見をや苦情を頂いている。</p>	<p>意見や苦情があった場合は早急に対応し、掲示板に答えを貼っている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は定期的にスタッフと話し合う場を設け、意見や不満を聞き改善できるよう取り組んでいる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事等がある場合には予め人数を厚くしたいため説明し調整をとっている。勤務表作成時にはその都度各スタッフと相談し調整をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフの離職を防ぐ為に定期的に面談をしストレス軽減を図っている。異動などはよっぽどの事がない限りしていない。</p>	<p>法人にてカウンセリング出来る体制をつくりスタッフのストレス軽減、離職がなくなるよう予定している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人にて管理者研修を毎月開催し管理者のスキルアップに努めている。</p>	<p>月1回メディカルスタートの講師を招き研修をしている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に入会し幅広く同業者との情報の共有ができるようにしている。母体の老人保健施設のネットワークも利用し個人的に交流したりもしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事以外にもスタッフの家族も含めた行事を行ったり、子供が小さいスタッフ等は勤務時間を考慮するなど働きやすい職場作りに努めている。</p>	<p>法人にてカウンセリング出来る体制をつくりスタッフのストレス軽減、離職がなくなるよう予定している。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は定期的に管理者、スタッフと話し合う場を設けている。又管理者はその都度各スタッフの状態を報告している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>個別ケアに重点を置き個人的に話すことを積極的に設けている。</p>	<p>入浴時は個人浴にて色々なこ事を話す場になっている。又個別での外出時も同様。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居する前は特に納得されるまで十分に説明し、話し合う機会をつくる努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聞いたうえでケースカンファレンスにて検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前には原則本人にグループホームを見学してもらい、なるべく本人の同意を得るようにしている。入居直後は本人の情報をスタッフは十分に理解、把握し慎重に進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念に添った介護を意識してする事で対応している。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等には積極的に参加を促し一緒にお手伝いをしてもらったりしている。		家族との結びつきをより強くするために、今後各家族での面談などを希望している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様の状態を十分理解できるように説明し、より良い関係が出来るよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の面会を歓迎し支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士の状態を把握し仲間分けをする事で、孤立しないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談等引き続き、続けている。		今後、退居されたご家族の方がボランティアで来る予定。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族より情報収集している。希望に添える様努めている。		センター方式を始めたため、今後そちらに移行する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、後も家族、本人様より日々情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状態をケースカンファレンスノートにて情報の共有化をする事で個別で対応出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にケースカンファレンスを開き家族、本人の希望に添った介護計画を作成している。		今後、各家族と定期的に面談できる体制を予定している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急遽変更時は緊急にてケースカンファレンスを開催し迅速に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ケースカンファレンスノートを活用し対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の老人保健施設と連携をとりながら様々な方法で対応している。	○	老人保健施設の、PT、ST、管理栄養士、訪問看護ステーションと連携をとり様々なニーズに対応出来るようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアを受け入れている。又小学生の課外授業などの受け入れなどもしている。		週2回ボランティアが来られる。月1度老健より傾聴ボランティアも着ている。新田小学生の課外授業は今年で2年目である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じ連携をとり対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進者会議を利用し連携をとっている。	○	まだ連携が始まったばかりの為今後もっと協力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で主治医が決まっている方は尊重している。又医療的に不安がある方などには任意で往診機関やまびこクリニックを勧めている。		ターミナルケアを実施する際にはやまびこクリニックを薦めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>開所から3年が経過し重度化してきている。もう一度ホームとしての指針を再確認する予定にあります。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃からスタッフは個人を尊重した声かけをし、個人の情報には十分注意して目の前に記録物を置かないよう配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	基本は本人の希望に極力添うように努めている。個人に合わせた聴き取り対応をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人ケアを重点に考えて対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人では本人の望む散髪屋に行っている。移動が難しい方に限っては馴染みある訪問理容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人にて食事の準備、片付けは日課になっている。好みに応じて行事などで調理したりしている。	秋は庭にて希望の多い秋刀魚バーベキューをしたり焼き芋をした。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調を考慮しながら当ホームでは自由に飲酒されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表をしようし排泄パターンの把握をし、ご本人の状態に合わせて対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に自由に行っている。拒否がある方などは良い状況等を把握し気持ちよく入浴できるよう援助している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状態、希望の時間にて休まれるように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人では魚の餌やりや、天気日記を日課とする事で責任をもっている。毎日の散歩以外に個別で出かける事が多い。		毎日コンビニへ買い物に行かれる方、近くのレストランで外食する方、動物園や記念公園等外出は2人などで個別ケアに努めています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に了解を得て財布を自己管理してもらうよう援助している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	極力その日の希望に添えるよう調整し対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事委員会で希望に添うため外出計画をし対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があれば援助している。なかなか来れない家族には手紙などを促し援助している。		個人では携帯電話を利用している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は基本的に自由にし面会しやすいようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束にならないようスタッフ会議で話し合っている。老健での勉強会にも積極的に参加し対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一部の入居者様は場合により施錠している。		玄関側の窓は防犯、本人の希望も兼ね施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にスタッフはユニット全員の所在を確認している。特に玄関にいる場合は注意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人に合わせた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書にて必ずスタッフで見直し、改善策を決めて対応している。老健での勉強会などに定期的に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	当ホームにてマニュアルを参考にしながらレクチャーしている。勉強会などを効果的に利用しスタッフのスキルアップに努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を1年に1回実施している。	○	地域住民の協力を得られるような働きかけはしていないが、どんなところであるかは認知されている。今後、地域住民合同の避難訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクが伴う事についてはその都度ご家族に説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化に気づいた時にはすぐに訪問看護師との連携をとれるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の服薬管理指導にて説明、各個人の服薬表はカードックスにはさみいつでも見れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤に頼らずにオリゴ糖や黄粉牛乳、運動、水分などで便秘対策をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	チェック表を作成し口腔ケアの徹底をしている。		入力チェック表にまとめ把握しやすいようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入力チェック表に記入欄をもうけ一目で把握できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにて対応し十分に注意している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理表を作成し十分に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花壇を置いたり入りやすい環境に心がけている。		冬場はイルミネーションを設置し近隣住民だけではなく通りの人からの反応も良い。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテンを使用し光や音への配慮、職員の声のトーンにも十分に注意している。水槽や四季の植物を置き過ぎやすい場の提供を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席とソファーとで場所を区切り団欒のスペースを確保している。		各席を個人のレベルに合わせた配置にする事で他入居者間のトラブル回避にもつながる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力馴染みあるものを持って来てもらっている。		音楽が好きな方には居室にオーディオを置き聴いてもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレなどには気にならないような消臭剤を使用している。温度、湿度計を設置し常に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床の障害物や少しの濡れなどには十分に注意し極力自律できるように援助している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室などネームプレートつける事によりなるべく認知してもらい混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には自由に出入りが出来庭の手入れやお茶、日光浴などをして過ごされている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームの特徴はゆったりとした生活、各個人に合わせたケアを心がけています。なので大勢での外出より個別での外出が非常に多いです。家族、本人の希望に極力添いたいと思い、今年は2例のターミナルケアを行ないました。母体の老健を始め各医療機関の連携があったからこそでありそこが一番の強みであると思っております。